

せ

せ

子音にして單子音の一つ。●う音に續く時はしょうと發音せらるゝ事多し。

せの濁音。

せ

背(名)

〔一〕動物の胴の後面。●せなむ。●そびら。〔二〕身の長さ。●たけ。

せ

背(名)

〔一〕兄。〔二〕夫。〔三〕男子を親しみ呼ぶ詞。地面を側る詞。●三十歩。即ち段の十分の一。

せ

敵(名)

せ

瀬(名)

〔一〕川の淺くして急流なるところ。〔二〕流るゝ水の筋。〔三〕集合。●時。●事。○「憂き瀬」樂しき瀬

せ

是(名)

非の反對。理に合ひたる事。

せ

姓(名)

〔一〕うち。〔二〕苗字。性實。●天性。

せ

性(名)

せ

制(名)

〔一〕制度。〔二〕禁制。製造。

せ

製(名)

せ

勢(名)

軍勢。

せ

正(名)

たゞしき事。●真正。

せ

精(名)

〔一〕魂。●根氣。●氣力。〔二〕山川草木

禽獸などの靈魂。○「花の精」「松の精」「山の精」(佛教)

せい

聖(名)

〔一〕天皇。〔二〕聖人。〔三〕神。基督教(名) 脊の添音。◎身のたけ。

せい

(名)

故。●譯。●ため。●原因。○「天氣のせい」で心持がよい(俗)

せい

生(代)

小生。●私。●僕。

せい

簾(名)

〔一〕簾竹。〔二〕卜簾。税(名) 租税。●年貢。

せい

征夷(名)

蝦夷を征伐する事。蝦夷を征伐する軍隊の總大將。〔一〕官名。

せい

うごん

蝦夷を征伐する軍隊の總大將。〔二〕源賴朝以來幕府將軍の任ぜらるゝ官職。全國兵馬の權を握るもの。

せい

生育(名)

成長しそた(事)。△(動)――生育す。世路(名) 世渡りの道。

せい

蒸籠(名)

食品を蒸すに用ふる器。釜の上に置きて湯氣を通ずるもの。

せい

青樓(名)

妓樓。清涼殿(名) せいりやうでんに同じ。

せい

成敗(名)

成功と失敗と。●成否。

せいばい

成敗(名)

刑罰に處する事。△(動)―成敗す。

征伐(名)

謀叛人又は敵を攻め伐つ事。●征討。△(動)―征伐す。

せいばん

生蕃(名)

純粹の蕃民。

せいぼ

生母(名)

其人を生みたる母。●うみのほは。●實母。

せいぼ

歳暮(名)

〔一〕歳の暮。●年末。〔二〕歳暮の進物。

せいほん

製本(名)

書物に綴り上ぐる事。△(動)―製本す。

せいほう

政法(名)

〔一〕政治の方法。●行政法。〔二〕政治と法律と。

せいほう

製法(名)

製造する方法。●こしらへ方。

せいほう

税法(名)

租税を取立つる方法。

せいほう

精兵(名)

精選したる兵士。

せいほう

生平(名)

へいせいと同じ。●平常。

せいほう

生別(名)

生き別れ。

せいほう

聖別(名)

成聖に同じ。(基督教)

せいほう

生徒(名)

學校に入りて教育さるゝ人。●學生。

せいほう

聖徒(名)

基督教の信徒。(基督教)

せいほう

制度(名)

制定せられたる法度。●おきて。●

法制。●制規。

せいいたう

政黨(名)

政治上の黨派。●政社。

せいいたう

征討(名)

征伐。●討伐。△(動)―征討す。

せいいたう

聖堂(名)

孔子の廟。●聖廟。

せいいたう

政道(名)

一國を統治する方法。●まつりごと。

せいとく

聖德(名)

天皇の御德。

せいち

政治(名)

一國を統治する事。●政務を行ふ事。

せいちやう

成長(名)

生物の體の漸々大きくなる事。●生育。△(動)―成長す。

せいり

生理(名)

〔一〕動植物の生活する理。〔二〕特に人體の生理。〔三〕生理學。

せいり

整理(名)

整へをさむる事。●取締。●處理。△(動)―整理す。

せいりがく

生理學(名)

〔一〕科學の科。生活體に於ける官能を研究する學問。〔二〕特に人體の生理學。●人身究理。

せいりがく

性理學(名)

哲學の科。人間の精神に就きて眞理を研究する學問。

せいり

聖慮(名)

天皇の御心。●敎慮。

せいり

精良(名)

極めてよき事。●精選。●無

類。△(形)―精良なる。(副)―精良に。

せいりやうでん

清涼殿(名) 大内裏御殿の一つ。紫宸殿の西に在りて主上の常に御座あらせらるるところ。●せいらうでん。●中殿。●御殿。

せいりよく

勢力(名) いきはび。●威勢と實力。

せいりよく

精力(名) 精氣。●根氣。

せいりやく

政畧(名) 「一」政治上の權謀。●かけひき。

せいおん

清音(名) 語學上の詞。濁音に對して他の濁らぬ音を云ふ。……わきくけことしすそ

の類。

せいおん

聖恩(名) 聖上の御恩。●皇恩。

せいわづらう

西王樂(名) 雅樂の曲名。

せい

星河(名) 天の川。

せい

正價(名) 眞正の價。●實價。

せい

笙歌(名) 笙の音と歌の聲と。

せい

制戒(名) 佛の禁戒。(佛敎)

せい

青海波(名) 「一」雅樂の曲名。「二」せい

せい

いなみ。●「二」古代筆の名。

せい

青海波(名) 模様の名。(形の曲線を波

せいがいしゃ

の如くに集め畫がきたるもの。
青蓋車(名) 青色の蓋ある車。皇太子の御乗用なりしもの。

せい

征韓(名) 三韓征伐。●朝鮮征伐。

せい

星學(名) 天文學の一名。

せい

西洋(名) 東洋に對して歐米諸國をいふ。

せい

青陽(名) 春の異名。

せい

西洋酒(名) 西洋風の酒の總名。●洋酒。

せい

脊板(名) 「一」腹卷の名所。背部に當たる處の板。「二」刈りたる草、稻など負ふ時脊中に當つる樞やうの木。

せい

青黛(名) 青く畫がきたる眉墨。

せい

政體(名) 政治の體裁。

せい

聖代(名) 聖明なる君王の治め給ふ御代。●昭代。

せい

制多伽(名) 不動明王の使者。頭髮を結び左手に三鈷を持ち右手に棒を把るもの。(佛敎)

せい

政談(名) 政治に關する談話。●政論。

せい

清濁(名) 「一」清む事と濁る事と。「二」語學上の調。清音と濁音と。

せい

せい

せい

せい

せい

せい

せいたく

贅澤(名) 奢り。●奢侈。△(形)―贅澤な。

(副)―贅澤に。(二俗)

せいれい

政令(名) 政府よりの命令。

せいれい

聖靈(名) 神の御靈。(基督教)

せいれい

精靈(名) 亡魂。●幽霊。

せいれき

西曆(名) 西洋の曆法。基督降世を紀元とするもの。

せいぞろへ

勢揃(名) 軍勢を揃へ整ふる事。

せいぞん

生存(名) 生きて世にある事。●生きながら

せいぞう

星霜(名) 年月。●月日。○謡曲「星霜年ふりたり」

せいぞう

製造(名) 品物を造り出す事。●製出。△(動)―製造す。

せいぞく

正則(名) 正しき法則。●本式。

せいぞく

西俗(名) 西洋の風俗。

せいねん

青年(名) 二十前後の人。●若者。●壯年。

せいらい

生來(名)(副) うまれつき。

せいらい

晴嵐(名) 晴天に吹く嵐。

せいむ

政務(名) 政治に關する事務。

せいむ

晴雨(名) 晴天と雨天と。

せいむ

晴雨(名) 晴天と雨天と。

せいうけい

晴雨計(名) 晴雨を豫知する器械。

せいうき

晴雨儀(名) せいうけいに同じ。

せいぐわ

清華(名) 公卿にて三公に任ぜらるべき家柄の稱。

せいぐわい

盛會(名) 盛なる集會。

せいぐわい

聖灰(名) 天主教にて麻の灰を蒙る式。罪を悲しむの意に於ける事。

せいぐわい

生活(名) 生存するための手段。●くらし。△(動)―生活す。

せいぐわい

請願(名) 其筋に願ひ出づる事。●出願。△(動)―請願す。

せいぐわい

誓願(名) 衆生を濟はんとの佛の誓約と願望。(佛教)

せいぐわい

誓約(名) ちかひ。●契約。●約束。△(動)―誓約す。

せいぐわい

生計(名) 生活。●活計。

せいぐわい

清潔(名) 清く潔よき事。●清淨。△(形)―清潔なる。(副)―清潔に。

せいぐわい

生絹(名) 練らぬ絹。●すし。●きいぬ。

せいぐわい

聖賢(名) 聖人と賢人と。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

せいぐわい

制限(名) 制定せられたる限り。●きまり。

△(動)―制限す。

せいふ

政府(名) 其國政治の大權を握る役所。

せいふ

制符(名) 太政官の官令。

せいふ

聖父(名) 耶穌基督の父。すなはら神。(基督

教)

せいぶつ

生物(名) 動物植物の總名。

せいぶつ

贅物(名) 無益のもの。●餘計物。

せいぶつがく

生物學(名) 動物學植物學の總名。

せいぶん

成分(名) 化學上の詞。其物を組織する各の

分子。

せいぶん

精分(名) 滋養分。

せいふう

清風(名) きよき風。

せいふう

腥風(名) なまぐさき風。

せいふく

正服(名) 正しき服裝。●禮服。

せいふく

制服(名) 制定せられたる服裝。●規則にて

一定せられたる服。

せいふく

正副(名) 正と副と。●本役と副役と。

せいこん

精魂(名) 「一」たましひ。●精神。「二」靈。

幽靈。「三」草木禽獸などの精。

せいごん

誓言(名) 誓ひの言葉。

せいかう

精巧(名) くはしくたくみな事。△(形)―

せいがう

精巧なる。(副)―精巧に。
精好(名) 絹織物の一種。練糸を縦とし生糸

を横としたるもの。

せいこうくわい

聖公會(名) 基督教々會の稱へ。

せいゑん

聲援(名) 直接に力を添へずして遙に勢を助

くる事。△(動)―聲援す。

せいいてい

聖帝(名) 聖明なる天皇。

せいいてい

青帝(名) 春を司る神。

せいいてつ

西哲(名) 西洋の賢人。

せいいてん

青天(名) 青空。●雲なき空。

せいいてん

晴天(名) 晴れたる天氣。●晴れたる空。

せいいでん

聖殿(名) 神の宮。(基督教)

せいゐ

井蛙(名) 井の中の蛙。世間の事を知らぬ喩に

いふ。

せいゐ

青寅(名) 車の腰、經机、門扉な

ごの影摸様の名。木を影み

せいゐ

制札(名) 禁制の個條を記し

せいゐ

たる立札。●禁札。

せいざう

生殺(名) 生かし置く事と殺す事と。

せいざん

青山(名) 「一」青々としたる山。「二」古代琵琶



琵琶の名器。

せいざん

聖餐(名) 宗祖十字架の死を記憶する爲め教會にて麵包と葡萄酒とを飲食する式。(基督教)

督教

せいざん

西山(名) 西の山。

せいき

成規(名) 成文の規則。●定則。●法則。

せいき

生氣(名) 生きて居る氣。●生き／＼して居る氣力。

せいき

精氣(名) 精神。

せいき

旌旗(名) 旗。

せいき

世記(名) 歷史上百年代の稱。西洋紀元により一年より百年までを第一世紀とし百一年より二百年までを第二世紀とするもの。以下の數へ方之に準ず。

せいきょ

逝去(名) 死去の敬語。

せいきょ

清香(名) 清きにほひ。(謠曲)

せいきょ

西教(名) 西洋の宗教。●耶穌教。●基督教。

せいけ

聖教(名) 耶穌基督の教へ。……佛法にてはしやうけうと稱ふ。

せいげふ

生業(名) 生計の爲めの業務。

せいきん

制禁(名) 禁制。●禁斷。

せいきん

精勤(名) 出精勤勉する事。●勉勵。△(動)

せいきふ

一精勤す。

性急(名) 氣のいらつ事。●せっかち。

せいめい

生命(名) いのち。

せいめい

姓名(名) 苗字と名と。

せいめい

聲名(名) 名高き評判。

せいめい

聖明(名) 聖人の徳を得て智の明かなる事。

……天皇にいふ詞。△(形)——聖明の。(又)

せいめいばた

——聖明なる。(副)——聖明に。

せいみ

姓名旗(名) 軍旗の一種。姓名を記して鎧の脊に立つる旗。●指物。

せいみつ

舍密(名) 化學。……維新前蘭語により稱へたる詞。

せいみん

精密(名) 精細詳密なる事。●くはしき事。

せいし

△(形)——精密なる。(副)——精密に。

せいし

生民(名) 其國に生息する人々。●人民。

姓氏(名)

「一」うちかばれ。「二」姓と苗字と。

世子(名)

大名の世嗣。

せいし

聖子(名) 耶蘇基督。(基督教)

せいし

正史(名) 其國の正しき歴史。●朝廷にて編纂

せし歴史。●國史。

せいし

誓紙(名) 誓文を記したる紙。●起請文。

せいし

勢至(名) 菩薩の名。智慧の光を以て普く一切

を照らし三途を離れて無上力を得せしむるもの。月天子(月の神)の本地。(佛教)

せいし

制止(名) 制止しむる事。●禁制。△(動)―制

止す。

せいじ

青磁(名) 磁器の一種。薄藍又は薄緑の藥を全

面に施したるもの。

せいじ

政事(名) まつりごと。●政治。

せいし

聖書(名) 舊約全書と新約全書との總稱。其教

徒の神の書として崇め讀むもの。●バイブル。(基督教)

ル。(基督教)

せいし

誓書(名) 誓文を記したる書面。●誓紙。●起

請文。

せいし

清書(名) 〔一〕下書を清潔に書き直す事。●淨

書。△(動)―清書す。〔二〕文字を習ひ終る

時の文を白紙に書きて師の前に出だす事。

せいじゃう

聖上(名) 主上の尊稱。

せいじゃう

誓狀(名) 誓書。●誓紙。

せいしよく

聖職(名) 按手禮を受けて教理訓戒を説教す

る資格の人。(基督教)

せいしよくき

生殖器(名) 生物の同種繁殖を掌る機

關。

せいしつ

性質(名) 自然の儘の實質。●たち。●もち

まへ。●うまれつき。●天性。

せいじつ

聖日(名) 安息日。●日曜日。(基督教)

せいじつ

誠實(名) まこと。△(形)―誠實なる。(副)

―誠實に。

せいしん

星辰(名) ほし。

せんしん

精神(名) 〔一〕たましひ。●心。●意志。〔二〕

氣力。●精根。●根氣。〔三〕物事の主眼。

●神髓。

せいじん

聖人(名) 德行高く智力圓滿なる人。

せいじゃ

聖者(名) 基督教徒。(基督教)

せいじゃ

正邪(名) 正しき事と邪なる事と。

せいしき

正式(名) 正しき法式。●本式。●正則。

せいじ

聖壽(名) 天皇の御壽命。●寶算。

せいしふ

世襲(名) 代々其家に承け傳ふる事。

せいじう

西歩(名) 西の方の夷狄。

せいひ

正妃(名) 皇后。

せいもん

誓文(名) 誓の旨を記したる文。●誓紙。●

誓書。●起請文。

せいせい

成聖(名) 神の屬とする事。(基督教)

せいせん

聖洗(名) 基督教會に入る時水を以て頭を浸す式。(基督教)

せいせん

精撰(名) 精密に撰び抜く事。△(動)―精撰す。

せいせき

星夕(名) 星祭る夕べ。●七夕。

せいせき

成績(名) できばね。●結果。●効果。

せいす

製(他動サ變) こしらへる。●製造する。●造り出す。

せいす

制(他動サ變) 〔一〕制定する。●規定する。●定むる。〔二〕制止する。●止むる。●禁ずる。

る。

せいす

征(他動サ變) 征伐す。●攻むる。

せいす

盛衰(名) 盛なる事と衰ふる事と。●興廢。

せろ

(名) ろは助辭。◎夫。●思ふ男。(萬葉東歌)

せばち

狹路(名) 狹き道。(賴政集)

せばがる

(自動四段) 狭く思ふ。

せばむ

(他動下二段) 狭くならする。●狭くする。

せばまる

(自動四段) 狭くなる。

せばし

狭(形。形狀言ク活) せましに同じ。

せに

錢(名) 〔一〕金屬製の通用貨幣。●鳥目。〔二〕金錢。

せにがた

錢形(名) 錢の如き形したるもの。

せにがさ

錢瘡(名) 皮膚病の名。田蟲の一名。

せにがめ

錢龜(名) 龜の一種。大さ錢程なるもの。

せにうち

錢打(名) 小供遊戲の名。地上に線を引き互に錢を投げ入れて敵の錢を打ち其當りたるは我勝として之を取る勝負事。

せにあふひ

錢葵(名) 草の名。葵の一種にして小さく錢程の花咲くもの。

せにミユ

施入(名) 布施にして僧に送る事。△(動)―施入す

せぼね

脊骨(名) 高等動物の脊を貫きて體の中心なる骨。●脊柱。●脊梁骨。

せど

瀬戸。追問(名) 兩陸に狹まれたる海。●海峽。

せど

背戸(名) 家の裏口。●裏門。

せだう

世道(名) 世間普通の道德。

せどうか

旋頭歌(名) 和歌の一種。五七七五七七き句を成したるもの。……「うちわたす(五)をち

かたびさに(七)ものまうすわれ(七)そのそ
こに(五)しろくさけるは(七)なにのばなぞ
も(七)の類。

せごもの

瀬戸物(名) 「一」陶器の一種。尾張の國瀬戸
村邊より産するもの。「二」陶器の總名。

せち

節(名) 「一」せつに同じ。「二」節句。「三」祝日の
膳部。……(雅)

せちに

切に(副) しきりに。●ひごく。●れんごろに。
(雅)

せちたう

節刀(名) せつたうに同じ。(平家)

せちり

刹利(名) せつりに同じ。(佛教)

せちがい

殺害(名) せつがいに同じ。(空穗)

せちく

節供(名) せつくに同じ。(雅)

せちぶん

節分(名) せつぶんと同じ。(雅)

せちあ

節會(名) 朝廷にて行はるゝ定期の公事。又は
其宴會。

せちみ

節忌(名) 毎月定期の物忌。(雅)

せり

芹(名) 草の名。水邊に生じて食用となるもの。
競(名) 「一」せりあふ事。●競争。「二」せりうり。

せれり
う

●競賣。
施療(名) 報酬金を待ずして治療する事。●

せりだし

施しの療治。△(動)―施療す。
迫出(名) 芝居にて舞臺の下より漸々役者
の顯はれ出づる一種の仕懸。

せりだす

迫出(他動又自動四段) 迫り出しにて舞臺に
顯はれ出づる。

せりうり

競賣(名) 各望みの價を公言せしめて其尤も
高きものに賣渡す事。●せり。

せりふ

臺詞(名) 芝居の舞臺にて役者の自ら述ぶる言
語。

せりあふ

競合(自動四段) きそひあふ。●競争する。
競上(他動下二段) 競賣して價を段々に高く
する。

せりあぐ

脊縫(名) 脊筋にある布の縫目。

せめひ

競(他動四段) 「一」きそふ。●競争する。「二」競
賣の買ひ方となる。

せる

迫(他動四段) 「一」せまる。●狭くする。「二」押
し出す。

せなそこ

消息(名) せうそくに同じ。●音信。●書信。
(雅)

せおふ

脊負(他動四段) 脊に負ふ。●しよふ。

せわ

世話(名) 「一」世の諺。「二」世俗。「三」懇切なる

差圖をする事。

せはし

〔形。形狀言シク活〕

〔一〕いそがし。●多忙なる。〔二〕狭し。●せまくるし。○堀川「山里の笥の水はせはしきになほ有明の月ぞやとれる」

せはしなし

〔形。形狀言ク活〕

〔一〕狭し。●究屈なる。○謡曲「草の枕のせはしなき假寢の床ぐものうき」〔二〕忙はしげなる。●性急なる。

せわもの

世話物〔名〕

芝居に云ふ詞。現今の社會に擬して作りたる狂言。

せかい

世界〔名〕

〔一〕地球上。●天下。●世間。●社會。〔二〕想像的の一社會。○「極樂世界」神の世界。〔三〕或物のみにて組織せる一社界。○「文學世界」「少年世界」「禽獸世界」

せがい

〔名〕

船の左右兩端にて櫓權を取り扱ふ處。

せがいはう

善界坊〔名〕

支那にての天狗の首領の名。

せがは

脊革〔名〕

西洋綴りの本の背部に張り付くる皮。

せがれ

悴。躬〔名〕

息子。

せがむ

〔他動四段〕

迫り請ふ。

せがき

施餓鬼〔名〕

亡者の冥福を修むるため餓鬼に食

物を施して行ふ佛事。

せよ

施與〔名〕

施し與ふる事。△〔動〕―施與す。

せたい

世帯〔名〕

諸帯に同じ。

せたい

世態〔名〕

世間の狀態。●世狀。

せたむ

〔他動下二段〕

責め戒むる。●叱る。●さいなむ。〔雅〕

せたけ

脊丈〔名〕

せ。●せい。●身の長さ。

せたえ

瀬絶〔名〕

川瀬の水の絶ゆる事。

せそん

世尊〔名〕

釋迦如來。〔佛教〕

せそんじりゅう

世尊寺流〔名〕

和樣書法の一派。藤原

行成の書き創めたるもの。世尊寺は行成の家の號。

せざう

軟障〔名〕

せじょうに同じ。

せぞく

世俗〔名〕

〔一〕世のならはし。●世間の風俗。

せつ

節〔名〕

〔一〕曆の詞。二十四氣に當たる時。○「立春の節」「夏至の節」〔二〕時候。●時節。〔三〕時。●なり。〔四〕節句。〔五〕みさを。〔六〕文章の小切。〔七〕音樂のふし。

せつ

拙〔名〕

―拙なる。〔副〕―拙に。つたなき事。●下手。●無器用。△〔形〕

せつ 説(名) 〔一〕其物に付きての意見。〔二〕風説。

せついん 雪隠(名) 便所の異名。

せつるき 絶域(名) 遠き國。

せつろく 攝録(名) 官名。攝政の異名。

せつば 切羽(名) 刃の身の鐔に接する處に薄く被せたる金物。

せつばん 折半(名) 眞半分に分くる事。●二つ割。△(動) 折半す。

せつばん 絶版(名) 其書の出版を廢する事。△(動) 絶版す。

せつばく 切迫(名) 差し迫る事。△(動) 切迫す。

せつに 切(副) しきりに。●ひどく。●れんごろに。

せつばう 切望(名) しきりに望む事。△(動) 切望す。

せつぼう 説法(名) 説教に同じ。

せつばう 絶望(名) 希望を絶つ事。●失望。△(動) 絶望す。

せつべき 絶壁(名) 壁の如く直立したる岸。●きりぎり。

●懸崖。●斷崖。

せつたう 節刀(名) 大將軍の征伐に向ふ時勅使のしるしとして天皇の之を授け給ふ刀。

せつたう 竊盜(名) 〔一〕ぬすみ。〔二〕ぬすびと。

せつどう 舌頭(名) 舌のさき。●口先。

せつたう 絶倒(名) 〔一〕氣絶して倒るゝ事。〔二〕絶倒する程に大笑する事。△(動) 絶倒す。

せつとく 説得(名) 説諭して得心させる事。△(動) 説得す。

せつちやう 絶頂(名) 高山の頂上。

せつちう 折衷(名) 中を取る事。●程よく取り合はする事。△(動) 折衷す。

せつり 攝理(名) 神のあらかじめ計畫したる道。●基督教。

せつり 刹利(名) 刹帝利の略。

せつりん 絶倫(名) なみすぐれたる事。●拔群。●卓越。

せつか (名) 馬の脊筋の高き所。

せつかひ (名) 杓子的一種。頭の半月形なるもの。

せつがい 殺害(名) 人を殺す事。△(動) 殺害す。

せつかん 折檻(名) 責め叱る事。△(動) 折檻す。

せつかん 切諫(名) 切に諫言する事。△(動) 切諫す。

せつかく 折角(副) わざ／＼。●特別に。△(形) 折角の。

せつよう 節用(名) 〔一〕費用を節約する事。●儉約。

せつや ヨウ

●節減。〔二〕節用集の略。
攝養(名) 養生。●攝生。●保養。△(動)―
攝養す。

せつようし シュエツ

節用集(名) 〔二〕簡便を旨として種
々の事柄を集録したる書物。〔二〕特にばい
ろは字引の入りたるもの。

せつた

雪踏(名) 草履の裏に皮を着け踵に鐵の平板を打
ちたるもの。

せつたい

接待(名) 〔一〕客人に應接待遇する事。〔二〕飲
食品など無料にて自由に飲食さする事。…
…佛教上の善根功德のために行ふもの。

せつたいせつめい

絶體絶命 (句) 身體も生命も維持する
望の絶ゆる程に進退の究まりたる場合

せつさう

節操(名) 正しきを守る心。●みさな。●節
義。●節。

せつぞく

接續(名) つづく事。●連接。●連續。△(動)
接續す。

せつそく

絶息(名) 息の絶ゆる事。△(動)―絶息す。
接續詞(名) 語學上の詞。詞と詞、又は章
句と章句とを結び付くる詞。

せつぞくし

刹那(名) 極めて僅少な時間。●瞬間。…俱

せつな

舍論に曰く。壯士一彈指頭。六十五刹那。ま
た仁王護國經に曰く。梵語刹那。此言一念。
經云一念中有九十刹那。一刹那中有九百
生滅。

せつなし

(形。形狀言ク活) 苦し。

せつく

節供(名) 五節句其他祝日の儀式上の膳部。
節句(名) 五節句を見よ。

せつく

(他動四段) 人を責めいぢめる。〔二〕物を手に
て弄ぶ。●ついく。

せつく

絶句(名) 漢詩の一體。五言又は七言にて四句よ
り成るもの。

せつく

攝關(名) 攝政と關白と。

せつけん

攝家(名) 公卿にて攝政關白たるを得る家柄。即
ち近衛、九條、二條、一條、鷹司の五家。

せつけい

絶景(名) すぐれたる風景。

せつけん

節儉(名) 儉約。△(形)―節儉なる。(副)―節
儉に。

せつげん

節減(名) 費額を儉約して減ずる事。●節用。
●節約。△(動)―節約す。

せつふ

節婦(名) 節操を守る婦人。●貞女。

せつぶん

節分(名) 〔二〕曆にて立春、立夏、立秋、立冬

日を云ふ。「二」特には立春の日。……此日は世俗の頭、終の枝などを軒に刺して互詩をなす。

せつふん

接吻(名) 西洋風の禮式にて口と口と相接する事。△(動)―接吻す。

せつぷく

切腹(名) 「一」自ら腹を切りて死ぬる事。△(動)―切腹す。「二」徳川時代士人以上の刑罰。切腹を命ぜらるゝもの。

せつかう

絶交(名) 友人間の交際を絶つ事。△(動)―絶交す。

せつていり

刹帝利(名) 天竺にて四族の一つ。帝王と爲るべき家柄の一族。●刹利。

せつざ

切磋(名) 珠玉を切り磋くの意より出で。◎學問藝術など攻究する事。△(動)―切磋す。

せつき

節季(名) 年の終の頃。●歳末。●歳暮。

せつきやう

説經(名) 「一」佛經の意味を俗人に説き聞かせる事。△(動)―説經す。

せつけう

説教(名) 佛法の教義を衆人に説き聞かせる事。△(動)―説教す。

せつきやうし

説經師(名) 説經をなす事。

せつきやうしうぶし

説經節(名) 唄の一種。もと誦經の

の節に擬したるもの。

せつゆ

説諭(名) 説き諭す事。△(動)―説諭す。

せつめい

説明(名) ときあかし。●解釋。△(動)―説明す。

せつめい

絶命(名) 死ぬる事。△(動)―絶命す。

せつめいごころば

絶命詞(名) 辭世。

せつめい

絶妙(名) すぐれて面白き事。

せつし

切齒(名) 齒がみを爲す事。……慷慨悲憤の事なり。△(動)―切齒す。

せつしやう

攝政(名) 女帝又は幼帝の時天皇の御代理として國政を執る役。

せつしやう

殺生(名) 「一」佛教にて五戒の一つ。生類を殺す事。「二」獸獵又は漁獵。

せつしよく

絶食(名) 「一」病氣などの爲めに少しも食物の咽に通らぬ事。「二」斷食。△(動)―絶食す。

せつしや

拙者(代) 私。●小生。

せつびつ

拙筆(名) 下手なる文字。

せつびつ

絶筆(名) 「一」絶妙なる筆蹟。「二」死ぬる前に書きたる筆蹟。「三」書く事を廢する事。

せつせい

絶世(名) 世に稀なる事。△(形)―絶世の。

せつせつ

節節(名)

「一」なりく。「二」しばく。

せつせん

接戦(名)

接近して戦ふ事。●交戦。△(動)―

接戦す。

せつせん

舌戦(名)

言葉戦ひ。●口論。△(動)―舌戦す。

せつす

節(他動サ變)

物事を扣目にする。●節約する。

せつす

接(自動サ變)

「一」あふ。●まじはる。「二」つづく。●つらなる。●接續する。「三」交接する。

せつす

攝(他動サ變)

「一」佛の國に呼び取る。「二」もてなす。

せつす

絶(他動サ變)

「一」卓絶する。●すぐるい。●こゆる。「二」斷絶する。●たゆる。

せな

(名)

脊中の略。

せな

(名)

夫。●思ふ男。○萬代「東路のかほよが沼のかほよ花時ぞこもなくせなぞ戀しき」

せなか

脊中(名)

「一」脊の中央の凹みたる所。●脊筋。「二」背。●背部。

せなか

脊中合(名)

脊中と脊中と合はする事。不和不親睦の形容。

せらぎ

(名)

せらぎに同じ。○菅家萬葉「もみち葉の流れてせけば山川の浅きせらぎも秋は深

せむ

責。攻(他動下二段)

「一」迫りて苦しき目に逢はする。●詰責する。●責罰する。「二」敵に打ちかゝる。●攻撃する。

きな

せん

錢(名)

「一」ぜに。「二」徳川時代貨幣の單位。●文に同じ。「三」現今の貨幣厘の十倍。圓の百分の一。

はなむけ。●錢別。

せん

錢(名)

工匠の具。兩端に柄あり中央に及のあるもの。

せん

栓(名)

穴に挿み込んで塞ぐもの。……徳利の口の類。

せん

詮(名)

かひ。●功能。

せん

疳(名)

病の名。●疳氣。●疳痛。

せん

仙(名)

仙人。

せん

先(名)

「一」さき。●まへ。「二」先祖。す。

せん

線(名)

百の十倍。

せん

膳(名)

「一」食事する時銘々食器を載せて食ふ臺。「二」食事。●飯。

せん

善(名)

「一」惡ならぬ總べてのよき事。「二」死者

を善所に到らしむるの道。●追善。●佛事。

前(名) まへ。

禪(名) 〔一〕棄惡を譯す。能く一切の諸惡を棄つ

るの意。〔二〕之を修するの道。〔三〕禪宗。●

禪學。……(佛敎)

纖維(名) 動植物體中にありて絲筋の如き形状

をなしたるものゝ總名。

專一 それのみを第一にする事。●もっぱら。

●ひたすら。(形)―專一の。(副)―專一に。

先輩(名) 我より先に其道に入り立ちたる

人。●先進。●先達。

千萬(副) 重々。●幾重にも。

船舶(名) ふね。

仙女(名) せんぢよに同じ。

善女(名) 女性の佛敎信徒の美稱。(佛敎)

仙人(名) 老いす死なす神變不思議の術を得

て。山中に住む一種の神人。

專任(名) 専ら其事に任する事。

善人(名) 心のよき人。

先入(名) 先に心に染み込みたる事。

懺法(名) 〔一〕佛前にて懺悔を行ふの法。

せんばふ

〔一〕懺法を修する時の誦文。

前坊(名) 前の皇太子。薨居または廢太子に

なり給ひし時に云ふ。

先鋒(名) 先陣。

禪法(名) 禪を修するの法。

煎餅(名) 菓子の名。小麥の粉に砂糖を加へ

て捏れ形に入れ平たくして焼きたるもの。

錢別(名) はなむけ。

先鞭(名) 最初に鞭を當つるの意にて初めて

其事に手を下すをいふ。

前編(名) 書物の後編に對して前の一まとめ

を云ふ。

千變萬化(句) 數限りなく變化するを

いふ。

遷都(名) 都を遷す事。

先途(名) 行き着く所。●止まるべき場所。●

身の落着。●事の結局。●最後。

前途(名) 以後進み行く道。●行末。

仙洞(名) 上皇御所。

先登(名) 先に立ちて敵陣に斫り入る事。●

一番がけ。△(動)―先登す。

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんぼふ

せんたう

錢湯(名) 風呂屋。●湯屋。

せんどう

船頭(名) 「一」船の頭たる人。●ふななま。

せんどう

●船長。「二」轉じては舟乗の總名。

せんどう

煽動(名) あふりたつ事。●おだてる事。△

せんたう

(動)―煽動す。

せんたう

先導(名) 先に立ちて導く事。●案内。●嚮

せんたう

導。△(動)―先導す。

せんたう

禪道(名) 禪を修するの道。

せんたう

旋頭歌(名) セミウかに同じ。

せんち

戦地(名) 戦争のある地方。●戦場。

せんち

仙女(名) 女性の仙人。

せんち

船長(名) 一船の長。普通には西洋形の

せんち

船の船頭。

せんち

戦場(名) 戦争の場所。

せんち

前兆(名) 前以て知る、兆候。●きざし。●

せんち

まへじらせ。

せんち

禪定(名) 「一」禪道を修して悟を開く

せんち

事。……(佛教)「二」神佛の靈地に登山して

せんち

修行する事。又は參詣する事。○「立山禪定」

せんち

煎茶(名) 煮出したる茶。

せんち

●先鋒。

せんち

●全球(名) 地球全體。●全世界。

せんち

先住(名) 寺の先代の住職。

せんち

善智識(名) 德行の高大なる僧。

せんち

千兩(名) 草の名。葉は橘に似て赤く玉

せんち

の如き實を結ぶもの。

せんち

占領(名) 兵力にて取りたる土地を占有

せんち

して領分とする事。△(動)―占領す。

せんち

千兩役者(名) 給金千兩取る役

せんち

者。●高等なる俳優。

せんち

禪林(名) 禪宗の寺。

せんち

戦略(名) 戦争上の計略。

せんち

川柳(名) 俳諧の發句に似て滑稽を言ひ人

せんち

情を穿つを主とせしもの。寶曆年間に縁亭

せんち

川柳といふ人の創めたる故の名。……「雪

せんち

隠で關羽は髭をたくしあげ」神鳴は鳴る時

せんち

ばかり様をつけ」の類。

せんち

川柳點(名) 「一」川柳を集めて評を加

せんち

へしもの。「二」轉じては川柳を集めたる本。

せんち

山陰道(名) さんいんだうに同じ。(諺

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

せんち

曲

せんわう

先王(名) 先々の君王。

せんか

仙家(名) 仙人の住家。●仙境。

せんか

泉下(名) 黄泉の下。●よみぢ。●冥途。

せんがい

線鞋(名) 沓の一種。紐にて締めたり緩めたりするやうに作れるもの。

せんかん

戦艦(名) 戦に用ふる船。●軍艦。

せんかく

仙客(名) 仙人。

せんかく

先覺(名) 我より先に其道を深く覺りたる人。●先進。●先輩。

せんかく

仙樂(名) 「一」仙人の奏する音楽。「二」仙境の音楽。

せんかく

浅學(名) 淺き學問。●深からぬ學問。

せんかく

禪學(名) 禪宗の道の學問。

せんかく

宣耀殿(名) 禁中にて麗景殿の北にあ

せんかく

りたる御殿の名。常に女御などの住むところ。

せんえ

うでん 圓提(名) 顛倒邪見にして現在未來の業報を

せんたい

信ぜず善友智識に親します諸佛所説の教誡を聽かざる人。●大惡不信の徒。(佛教)

せんたい

先帝(名) せんていに同じ。

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

先代(名) 「一」以前の代。又は先代の人。「二」前代。

ぜんたい

全體(名) 物體の全部。●總體。

ぜんたい

全體副) 總じて。●一體。●もさより。

ぜんたい

前代(名) 前の代。●前の時代。

ぜんたい

前代未聞(句) 今までの世に聞きたる事もなきの意。●空前。●未曾有。

ぜんたい

仙臺平(名) 絹織物の名。精好の一種。仙臺より産し袴地を爲して上品なるもの。

せんたい

先達(名) せんたつに同じ。

せんたい

先達(名) 「一」山伏の山入する時同行中の老輩その先導者となりて螺の貝を吹き鳴らしつゝ行く事。又は其人。「二」講中道者などの登山する時その先導をなす山伏。又は古參の人。「三」其道の先輩。

せんたい

膳櫃(名) 膳立する時に膳を載せ置く棚。

せんたい

旃檀(名) 香木の名。紫檀、黑檀、白檀、赤檀などの種類。

せんたい

專斷(名) 相談せずに一料簡にて取極むる事。●勝手に取計らふ事。△(動)―專斷す。

せんたい

旃檀板(名) 鏡の名所。草摺の小さきも

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

せんたい

のにして右の胸の肩に近きあたりに着くるもの。

せんだんまき

千段巻(名) 弓の一種。滋藤の弓の本弭

末弭の下を藤にて十文字に巻きたるもの。

せんたく

洗濯(名) 衣類など洗ひ濯ぐ事。△(動)―洗濯す。

せんだまき

千手巻(名) 弓の一種。下地に漆を付けて

麻糸にて巻き。目を五分溢く巻き。又五分

置きて又五分巻き。段々此の如く麻糸にて巻きてせしめ漆にて塗りこめ上を蠟色に塗

りたるもの。

ぜんだて

膳立(名) 食膳の用意。●膳拵へ。

せんれい

洗禮(名) 聖洗に同じ。(基督教)

せんれい

先例(名) 先々よりの例。

せんそ

踐祚(名) 帝位を踏み給ふ事。●即位。△(動)―踐祚す。

せんそ

先祖(名) 其家を起したる人。●祖先。

せんさう

戦争(名) たたかひ。●合戦。●いくさ。

せんぞく

氈褥(名) 毛織物の褥。

せんぞく

洗足(名) 足を洗ふ事。又は其湯水。

ぜんそく

喘息(名) 病の名。咳の烈しく出で、呼吸の困難なるもの。

ぜんなん

善男(名) 男性の佛教信徒の美稱。(佛教)

せんむ

事務(名) 専ら其任務にあたる事。

ぜんろう

全能(名) 〔一〕全權の能力。〔二〕基督教にて神を云ふ。

ぜんく

前驅(名) 騎馬の先供。●先騎。●さきばらひ。●こぜん。

ぜんく

善果(名) 善き果報。(佛教)

ぜんく

全快(名) 病の全く快くなる事。●全癒。●平癒。

ぜんく

前官(名) 官を辭して非役になりたる時。其人の前の官をいふ。

せんくん

先君(名) 先の主君。

せんぐう

遷宮(名) 神社の移轉。●祭神の移轉。

せんやく

煎藥(名) 煎じ出して飲む藥。

せんやく

先役(名) 〔一〕以前に其役を勤めたる人。〔二〕人より先に當たりたる役。

せんやく

先約(名) 先の約束。●前約。

せんやく

前約(名) 以前よりの約束。

せんまい

洗米(名) 洗ひ清めたる白米。神佛に供ふる

ぜんまい

もの。●かしよね。●あらひよれ。
蕨(名) 「一」草の名。わらびの類にして又食用とするもの。「二」ぜんまいの形に巻きたる機械の仕掛。

ぜんまん

千萬(數) 百萬の十倍。

せんげ

宣下(名) 宣旨の下る事。●親任式。○「將軍宣下」

せんげ

遷化(名) 死去。僧に云ふ。

せんけ

禪家(名) 禪宗の寺院。

せんけつ

鮮血(名) 新鮮なる血。●生血。

せんげつ

先月(名) 先の月。●跡月。●去月。

せんげつ

前月(名) 其時より前の月。

せんけん

蟬娟(副) たなやかなる有様。(又)蟬娟さ。△

せんけん

先見(名) 將來を察する見識。

せんげん

宣言(名) 公然と言ひ述ぶる事。△(動)宣言す。

ぜんけん

前賢(名) 昔の賢人學者。

ぜんけん

全權(名) 全體に對する權力。●一切の權利。

●全能。

ぜんぶ

膳部(名) 支度の調ひたる膳。

ぜんぶ

膳夫(名) かしはで。

ぜんぶ

全部(名) 「一」各部分残らず。●全體。「二」部の書物残らず。

ぜんぶつ

前佛(名) 後佛に對して云ふ。釋迦如來。佛教。

ぜんぶん

全文(名) 其文章の全體。

ぜんぶん

前文(名) 手紙の最初に書く文句。……「一筆啓上」文して申上まわらせ候」の類。

せんこ

船庫(名) ふなぐら。

せんこ

譚語(名) うはこさ。

せんご

前後(名) 前と後と。●あこさき。

せんご

善後(名) 將來を善くする事。

せんこん

善根(名) 善果を得べき根原。

せんかう

戦功(名) 戦争にての手柄。●軍功。

せんかう

線香(名) 香の一種。細き筋に造りて佛前などに手向くるもの。

せんか

淺香(名) 香の一種。沈香を見よ。

せんか

先考(名) 亡父の尊稱。

せんか

遷幸(名) 皇居の御移轉に就ての行幸。△(動)―遷幸す。

せんかう

潜行(名) しのびあるき。△(動)―潜行す。

せんか^{コウ}

潜幸(名) 御忍びの行幸。

せんか^コふ^ッ

禪閣(名) 太閤にして佛門に入りたる人。●入道の太閤。

せんか^コうはなび

線香花火(名) 花火の一種。紙又は藁などにて細筋に這り線香を燃やすやうにして火を出だすもの。

せんこく

宣告(名) 裁判所の言渡。△(動)―宣告す。戦國(名) 「二」戦争の時代。「二」特には支那にて齊、魯、楚、燕、趙、晋、秦等の割據せし時代。

せんこく

全國(名) 國內一般。●國中。先帝(名) 先代の天皇陛下。先哲(名) 昔の學者。●前賢。先天(名) 生來。●うまれつき。善惡(名) 善と惡と。●よしあし。●是非。●邪正。

せんこく

遷座(名) 神社の祭神を他へ移す事。●遷宮。千歳(名) 「二」千年。●ちとせ。「二」神樂歌の曲名。「三」能樂の翁に附屬して一種の舞曲を舞ふ役者。

せんてい

せんてい

せんてん

せんてん

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

せんざい

善哉(名) 汁粉に同じ。

善哉(副) 歡喜感賞之餘に云ふ詞。よきかな。●よいかな。

穿鑿(名) 穿鑿す。●よく尋ねる事。●搜索。●吟味。△(動)―穿鑿す。

痛氣(名) 病の名。下腹などの引きつり痛むもの。

戦記(名) 戦争の記録。●軍記。

詮議(名) 「二」討論して後の決議。●調査。「二」吟味。●罪人の糾問。

前記(名) 「二」歴史にて本記、正記より前の記事。「二」前條に記したる事柄。

船渠(名) 船の製造修繕中入れ置く堀。●ドック。

選舉(名) 多くの人の中より適任の人を選び舉ぐる事。△(動)―選舉す。

鮮魚(名) 新鮮なる魚。

仙境(名) 仙人の住む場所。●仙人世界。

仙郷(名) 仙境に同じ。

宣教(名) 教を宣へ傳ふる事。

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

宣教(名)

せんげ セヨ ふッ

專業(名) 専門の業務。
賤業(名) 「一」賤しむべき業務。「二」特
には賣淫者。

せんけ キヨ うし

宣教師(名) 基督教を宣べ傳ふる役の
人。

ぜんきん

前金(名) 商品を受取らぬ前に拂ひ置く金。

ぜんきんち ジ

千金女兒(名) 雅樂の曲名。

せんい ユウ

専有(名) 専ら有つ事。●一人にて持ち切る
事。△(動)―専有す。

せんい ニユウ が

仙遊霞(名) 雅樂の曲名。

せんめい

鮮明(名) あざやかにあきらかなる事。△(形)
―鮮明なる。(副)―鮮明に。

せんめん

扇面(名) 扇子の面。●地紙。

せんみ ヤミ う

宣命(名) 「一」詔勅を宣へ傳ふる事。「二」
古へ和文にて記したる詔勅の文章。

せんみ ヤミ うがき

宣命書(名) 宣命の如き書き方。即
ち「慈政者行布安爲氏此事者天下難事爾在
者狂迷通頑奴心乎慈悟志正賜伎物在止所
念看波奈如此宣布」のやうに語尾てになげ
の類を本文の間に分註の如く小さく書き交
へたるもの。おもに宣命祝詞などに用ひた

せんみ ヤミ うれき

るもの。
宣明暦(名) 暦の一種。清和天皇の
御宇に行はれしもの。

せむし

脊虫(名) 病の爲め脊骨の前に曲かる事。又は
其人。

せんし

戦士(名) 戦争する人。

せんし

戦死(名) 戦争にての死去。●討死。△(動)―
戦死す。

せんし

淺紫(名) 染色の名。うすむらさき。

せんじ

宣旨(名) 「一」御口上にての勅命。「二」女官の
名。院にて取次を爲す役。

せんじ

戦時(名) 戦争中。

せんじ

前司(名) 前の國司。●先の國の守。

せんじがき

禪師(名) 朝廷より賜はる僧の一資格。
宣旨書(名) 「一」宣旨の趣を外記の文章に
書き取る事。「二」宣旨の如く常人の言語を

せんじがき

他人の筆記する事。●代筆。○源氏「今日
も宣旨書はいみじうこそ思はしおさしたれ
ど白き色紙に書きて」

せんじがみ

宣旨紙(名) 宣旨を書く一種の紙。紙屋紙
の一名。

ぜんし^よ 善所(名) 極樂世界。●西方淨土。(佛教)

ぜんじ^{ベシヨウ} 先生(名) 「一」官名。帶刀の長。「二」先輩。●せんせい。

ぜんじ^{ヤシヨウ} 替上(名) 臣下の身として天皇などに眞似する事。△(動)―替上す。

ぜんせ^{シヨウ} 全焼(名) 火事に一家のこらず焼失する事。●まるやけ。△(動)―全焼す。

ぜんじ^{ヤシヨウ} 前生(名) 前世。(佛教)

ぜんじ^{ヤシヨウ} 軟障(名) ぜじやうを見よ。

ぜんしん 先進(名) 其道に先だちて進みたる人。

ぜんじん 先人(名) 亡父または亡夫。

ぜんしん 全身(名) 身體の全部。●總身。

ぜんしん 善心(名) 善の心。●よき心。

ぜんしん 漸進(名) 漸次に進む事。△(動)―漸進す。

ぜんじん 善神(名) 佛法を守護する善き神。(佛教)

ぜんしんばんく 千辛萬苦(句) 種々の艱難辛苦。

せんじ^ヤ 撰者(名) 書物の編輯著述人。

せんし^く 疝癰(名) 病の名。疝氣の一種にして下腹に差し込むもの。

せんし^ゆ 先主(名) 先の主君。

せんし^ゆ 選手(名) 選り拔きの人。

ぜんじ^ゆ 千手(名) 千手觀音の畧。

ぜんじ^{かたらに} 千手陀羅尼(名) 千手觀音に祈る咒文。(佛教)

ぜんじ^{ゆつ} 仙術(名) 仙人の行ふ術。●仙人に爲るの術。

ぜんし^{ンユウ} 千秋(名) 千度の秋の意。久しき事に云ふ。禪宗(名) 佛教宗派の名。文字を主とせず。禪法悟道を以て旨とするもの我國にては後鳥羽天皇の頃に僧榮世によりて開け北條氏の頃専ら上流社會に用ひられたり。

ぜんし^ゆ 全集(名) 其人の歌文、詩など殘らず集めたる書物。

ぜんし^{シユ} 千秋萬歲(名) 千年も萬年までもの意。めでたき事に用ふ。

ぜんし^{シユ} 千秋樂(名) 「一」雅樂の曲名。「二」謡曲高砂の末段「千秋樂には君を撫で。萬歲樂には命を延ぶ相生の松風颯々の聲ぞ樂しむし」ふ文句の稱へ。能樂其日演奏の終りに必ず祝言として謡ふところのもの。「三」故に芝居其他のもの、終結、打出しなどいふ意味に用ふ。

ぜんじ^{シユウラク} 千手觀音(名) 「一」觀音の一體。

ぜんじ^{くわんおん} 千手觀音(名) 「一」觀音の一體。

ぜんじ^{くわんおん} 千手觀音(名) 「一」觀音の一體。

ぜんじ^{くわんおん} 千手觀音(名) 「一」觀音の一體。

右おのく二十本づゝ四十臂を有せる姿。

此觀

音二

十五

有に

一體

づゝ

出現

する

によ

りて

千手なる。(圖)(二)虱の異名。



せんび

せんび

せんもん

せんもん

ぜんぜ

ぜんせい

せんせい

せんせい

先妣(名)

亡母の尊稱。

先非(名)

以前爲したる行爲の非。

先門(名)

「一」或學術を專に研究する事。「二」

總べて其事をのみ專一とする事。

禪門(名)

「一」禪宗に入りたる人。「二」僧。

前世(名)

過去の世。●前の世。●先の世。佛

教

先生(名)

「一」學問の長者。●先輩。「二」師

匠。

せんせい

宣誓(名)

公衆の前にてする誓言。△(動)――

宣誓す。

せんせい

專制(名)

君主一人權を專にして國家を制御

する事。

せんせい

全盛(名)

盛大を極むる事。●物事の眞盛。

せんせん

戰戰(副)

恐れてふるふ有様。

ぜんぜん

漸漸(副)

順次に。●だんく。●漸次。●

漸く。●漸を以て。

せんず

屬子(名)

あふぎ。

せんず

撰(他動サ變)

えらぶ。●書物を編輯する。

せんず

僭(他動サ變)

臣下の身として天皇などの眞似

なする。●僭上する。

せんず

撰(他動サ變)

せんすに同じ。

せんず

先(自動サ變)

さきんする。

せんず

煎(他動サ變)

煮て汁を出す。

せんず

泉水(名)

庭前の池。

せんずるところ

(副)

之を要するに。●つまる處は。

せんず

節供(名)

せつくの略。(枕)

せんず

咳(自動四段)

咳をする。

せんず

急(自動四段)

いそぐ。●せきこむ。

せんず

堰(他動四段)

「一」塞ぎ留むる。「二」水を遮り留

むる。

ぜく

絶句(名) ぜっくの略。(源氏)

ぜくち

跼(自動四段) 脊の屈む。

ぜくつ

俚(名) 脊虫の古名。

ぜやく

施薬(名) 薬品を施し與ふる事。△(動)―施薬す。

ぜやくらん

施薬院(名) 古へ朝廷より貧民旅人などの

病者を養ひ之に薬を施し賜ひしころ。今の慈惠醫院の類。官吏は使、判官、主典あり。

せまい

施米(名) 米を施す事。古へ朝廷より山寺の僧

などに執行せられたるもの。

せまる

迫。逼(自動四段) 「一」狭くなる。●間の近くなる。「二」急になる。「三」困究する。

せまくら

瀬枕(名) 川の瀬を枕にする事。○萬代「道の

邊の川音はやみ寒き夜に瀬枕見えて澄める

月影」

せまし

狭(形。形状言ク活) 「一」幅の廣からぬ。●總べ

て物事の廣からぬ。「二」氣の短き。

せけん

世間(名) 「一」世の中。●社會。「二」人間界。(佛

教)

せぶみ

瀬踏(名) 海、川を徒歩にて渡る時瀬の深さ淺

せぶし

瀬伏(名) 川の底に伏し隠れ居る事。○永久百

首「飼ひのぼる鵜舟の繩のしげ、れば瀬ぶ

しの鮎の行く方やなき」

せこ

脊子(名)

「一」夫。●情郎。○和泉式部「いかな

らんせこが旅姫の草枕いさかく露はおきぬ

せこ

勢子(名)

山狩に鳥獸を追ひ出だすための人夫。

せこなほ

勢子繩(名)

勢子の野山に引きわたす繩。

せさい

世才(名)

世事に通じたる才氣。

せき

關(名)

「一」古へ要害の地に置きたる關門。出入

往還の旅人を嚴重に調査するところ。●番

所。「二」相撲にて東西の頭。

せき

關。堰(名)

水の流れを堰きこめたる處。●おせき。

せき

席(名)

「一」筵。●敷物「二」すわる場處。●座。

せき

籍(名)

戸籍。

せき

咳(名)

しばぶき。●咳嗽。

せきいた

關板(名)

板葺の屋根を横に押ふる板。

せきはらひ

咳拂(名)

人に知らるゝやうに態々咳の聲

せきはん

赤飯(名)

小豆飯。●強飯。●赤のめし。

さを踏み試むる事。

せきばん

石盤(名)

石筆にて文字を書くに用ふる石の

平板。

せきばん

石版(名)

石に書きて印刷する版。

せきばく

寂寞(副)

静かなる有様。●さびしき有様。

(又)寂寞さ。△(形)―寂寞たる。

せきん

責任(名)

其事を爲すべき義務。

せきどり

關取(名)

相撲の大關。

せきたう

石塔(名)

石造の塔婆。●墓標の石。●石碑。

せきたう

赤道(名)

地理學上の詞。地球の中軸と直角

に外面に沿ひて最大圓を描ける想像線。日光の直射する道を示したるもの。

せきどく

尺牘(名)

手紙。●書狀。●書簡。

せきち

尺地(名)

少しばかりの土地。●寸土。

せきち

關路(名)

關所のある街道。

せきちく

石竹(名)

草の名。唐撫子。

せきちのり

關路鳥(名)

ゆふつけ鳥に同じ。

せきり

赤痢(名)

病の名。赤色の下痢をなすもの。

せきり

瀬切(名)

瀬を堰きとむる事。又は其處。○散

本「飛鳥川瀬切に結ぶ水の泡の消え失せぬべき身をいかにせん」

せきり

背切(名)

小魚など骨も脊も共に丸切にする料

せきれい

理。

寂寞(副)

淋しき有様。●寂寞。(又)―寂寞

せきる

さ。△(形)―寂寞たる。

せきわき

瀬切(他動四段)

川瀬を堰きとむる。

せきかい

關脇(名)

相撲の大關に次ぐ資格。

せきがき

石階(名)

石のきざはし。●石段。

せきがく

碩學(名)

大學者。●鴻儒。

せきかぜ

席書(名)

席上にて書畫など書く事。

せきかぜ

關風(名)

關を吹く風。

せきかぜ

咳風(名)

咳の出る風邪。

せきやう

夕陽(名)

夕日。●斜陽。●落日。

せきやう

施行(名)

佛事供養の爲め貧民などに食物

せきやう

なご施す事。

せきたい

石帶(名)

いしのおびを見よ。

せきたい

石炭(名)

礦物の名。前世界の植物の化した

せきたい

るもの。燃料として用ふ。

せきたんゆ

石炭油(名)

石油に同じ。

せきらい

鶴領(名)

鳥の名。水邊に住み形はやゝ燕に

似て脊は薄黒く腹は白く黄ばみたるもの。節季候(名) 歳末に市中を呼びあるく厄拂。

せきざう

石像(名)

石にて造りたる像。

せきわう

石造(名) 石にて造る事。

せきじる

關弦(名) 古へ伊勢の關より出でたる弓の弦。

せきむかへ

關迎(名) 國境の關所まで出でて旅より歸る人を迎ふる事。(源氏)

せきなうゆ

石腦油(名) 石油に同じ。

せきぐち

堰口(名) 水を堰きたる口。

せきぐわ

石火(名) 石と金屬と打ち合ひて出づる火。

せきぐわい

石灰(名) いしはひに同じ。

せきや

關屋(名) 關所の建物。

せきやま

關山(名) 逢坂の關のある山。

せきけん

石鱗(名) しやほんに同じ。

せきこん

石魂(名) 岩石の精靈。

せきこう

斥候(名) 陣中にての物見の兵。●偵察。

せきて

關手(名) 關を通過する時に拂ふ金。(義經記)

せきてん

釋奠(名) しやくでんに同じ。

せきあく

積惡(名) 多く積り重なりたる惡事。

せきゆ

石油(名) 地中より出づる一種の油。現今一般燈火に用ふる。石炭油。●石腦油。

せきめん

赤面(名) 耻ぢて顔を赤くする事。△(動)―赤面す。

せきみつ

關水(名) 逢坂の關にある水の流れ。

せきし

關所(名) 關のある所。

せきしやう

石菖(名) 草の名。菖蒲に似て葉細かく香氣のある水草。水鉢などにに入れて賞翫するもの。

せきしん

赤心(名) 赤き心。●まごころ。●丹心。

せきひ

石碑(名) 碑文を記したる立石。●いしづみ。●石碑。●石塔。

せきひつ

石筆(名) 石盤に書く爲めの石の筆。

せきひん

赤貧(名) 大貧乏。

せきもり

關守(名) 關所を守る役人。

せきもん

石門(名) 石造の門。又は自然に出来たる石の門。

せきせん

積善(名) 多く積り重なりたる善事。

せきずゐ

脊髄(名) 脊骨の中にある髓。腦髓と連續するもの。

せめ

責(名) 〔一〕責むる事。●呵責。〔二〕責任。

せめんど

(名) 建築其他に用ふる漆喰の類の化合物。

せめうた

唱歌(名) 音楽にいふ詞。初め乙の調子にて歌ひたる歌を後甲にて歌ふをいふ。○平家

「せめの和歌いまだ歌ひも果てざるに佛を

抱へて入り給ふ」

せめぐ

関(他動四段)

責むる。

●恨む。○古今「老い

ぬさてなごか我身をせめきけん老いすげふに逢はましものを」

せめて

(副)

「一」責め寄せて切に。○古今「いさせて

戀しき時はぬばたまの夜の衣を返してぞ騒

る」(二)強ひて。●無理に。●ひどく。○源

氏「御涙もこぼれぬべきをせめてまぎらは

せ給ひて」宇治「色のせめて青かりければ」

「(三)強ひて願はくは。●ならぬ事ならば。…

…(形)―せめての。(又)―せめてもの。

せみ

蟬(名)

虫の名。地虫より化したる六脚二翅の小

虫。翅薄く透明にして夏の日盛に聲高く鳴

くもの。種類多し。

せみ

滑車(名)

絹にて重きものなど引き上ぐるに用ふ

る轆轤りくの器械。

せみど

(名)

清水の轉。(萬葉東歌)

せみなれ

蟬折(名)

古代横笛の名。

せみね

背梁(名)

馬の背筋の高き部分。

せみのほそで

蟬羽袖(名)

蟬の衣に同じ。

せみのほころも

蟬羽衣(名)

蟬の衣に同じ。

せみのころも

蟬衣(名)

夏着る薄衣。

せみこゑ

蟬聲(名)

蟬のやうに高き甲聲。

せじ

世事(名)

「一」世間に對する義務。「二」愛相。●

つゝしやう。

せじ

禪師(名)

せんじの略。(雅)

せじがき

宣言書(名)

せんじがきの略。(雅)

せじやシヨウ

世上(名)

世間一般。●世の中。

せじやシヨウ

軟障(名)

絹張の衝立の如きもの。古へ貴

人室には立てゝ隔てゐなしたり。

せしやシヨウめつぽふ

亡すべき法との意。(佛教)

是生滅法(名) 生れたるものは滅

せしむ

(自動下二段)

「一」さする。○勉強せしむ」

「二」手紙又は公文の詞。貴人が目下の人に、

對して自分の方の動詞に添へて云ふ。する

の意。○「一讀せしめ學んぬ」

せしめ

施主(名)

「一」僧に金品を施す人。「二」葬式の時

の主人役。

せび

滑車(名)

せみに同じ。

せび

是非(名)

是非と。●善惡。●邪正。

せび

是非(副)

せびさものの略。(又)―せびに。

せびども

是非共(副)

其事の是非に拘はらず必ず。●

兎も角も。●屹度。(又)―ぜひこもに。

せびる

(他動四段)

せつく。●れだる。●せがむ。

せひやじょう

世評(名) 世間の評判。

ぜひなし

是非無(形。形状言ク活) 止むを得ず。●仕方なし。

せもつ

施物(名) 布施の品物。

せぜ

瀬瀬(名) 多くの川瀬。●各の瀬。……世俗あやまりてぜいと讀む。

せせる

(他動四段)

ついく。●せつく。●手の先にて翫ぶ。

せせらわらふ

ッ

(自動四段) 嘲り笑ふ。●冷笑する。●鼻の先で笑ふ。

せぜらぎ

(名) 小きき水の流。

せせこまし

(形。形状言シク活) 狭くるし。●究屈なる。●こせつきたる。

せす

(他動四段)

し給ふ。○萬葉「國見しせして」

せす

施(他動サ變)

ほどこす。●施行する。

